2018

# 若者向け風呂敷とその結び方

FUROSHIKI Guide for Dummies

AD19　田口　菜美
指導教員　西野　隆司, 氏家　和彦

## 1. 研究目的

風呂敷は日本で古くから使われてきた「包むもの」で、物の形にとらわれることなく物を包むことができる優れた包装材である。

また、ビニール袋や紙袋と違い、洗えば半永久的に使用することができ、とてもエコロジーである。そんな風呂敷の良さを知らず、使用したことがほとんどない現代の日本の若者たちに伝え、有効活用することで日本文化の良さを見直してもらいたいと考えた。

## 2. 調査と分析

環境問題により「エコ」という言葉が頻繁に使われ、各地のスーパーでは買い物時のビニール袋が有料になりエコバッグを使用している人が多く見られるが、風呂敷を使用している人は滅多にいない。

また、風呂敷を販売している店に行ったところ若者でも使えそうな風呂敷を販売しているにもかかわらず店で買い物しているのは、20 代後半～40 代くらいの女性ばかりであった。

20 歳前後の男女にヒアリングをしたところ、風呂敷を使ってみたくても使い方がわからない、古くさいイメージ、身近にない、買えるところがわからないという意見をいただいた。

## 3. コンセプトの立案

コンセプトを「温故知新」にし、提案作品を制作した。風呂敷を制作する際に草木染めや絞りを用いるなど古くから使われている技法を取り入れる一方、パッチワークの風呂敷という新しい試みをしたこと、古くからある風呂敷を今の新しいファッションなどに取り入れてほしいという意味を込めて設定した。

## 4. デザイン展開

風呂敷は一般的に面素材であればブロード、シャンタンを、正絹では縮緬（ちりめん）、合成繊維ではポリエステルやレーヨンを使うことが多い。そこで私は強度の心配からかほとんど使用されないガーゼ素材に着目し、無地の白いガーゼハンカチ 9 枚にそれぞれ絞りを施し草木染めをしたものを繋ぎ合わせ、一枚の風呂敷にした。こうすることで、和の要素である「風呂敷」「染め」「絞り」と洋の要素である「パッチワーク」の融合にすることができると考えた。和と洋の融合をすることで、洋文化を多く取り入れている若者でも使いやすくなると考えた。

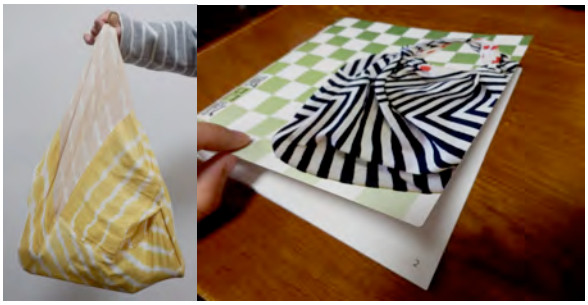
風呂敷は、ほぼ正方形というその形からなのか、きっちりとしている印象を受けるが、ガーゼ素材に絞りを施し草木染めすることで、暖かみのあるやわらかい印象のものを制作しようと考えた。絞りは輪ゴムで縛り、模様を付けた。

草木染めでは、たまねぎの皮を煮立たせ媒染としてミョウバンを加えたものと、紅茶のティーバッグで濃く紅茶を抽出したものにミョウバンを加えたものの二つの染液を使った。

風呂敷の使い方がわからないという若者のために若者にも使いやすい普段使える風呂敷バッグの結び方を図解したものを冊子としてまとめた。

この冊子では結び方を 10 パターン載せており、平包みなどの包み方を 3 パターン載せている。他にも興味を深めてもらうために歴史やオリジナル風呂敷の作り方を紹介した。

## 5. 完成図



## 6. 結論

ターゲットユーザーに冊子を見ながら風呂敷を結んでもらう検証で、制作した風呂敷と冊子についてヒアリングをしたところ、やわらかくて結びやすく、しわになりにくい、強度や防水に不安があるので練習用だといいのではという意見をいただいた。

その意見を取り入れて、風呂敷を自作し、冊子を見ながら練習できるキットを最終作品とした。それにより購買意欲が高まれば、風呂敷を購入し、有効的に使用してくれると踏んでいる。

## 文　献

[1] 山田悦子,『結んでつくるふろしきバッグ一枚の布から、32 種類のバッグを作る』,グラフィック社, 2012
[2] 有限会社京都掛札, 風呂敷いろいろ京都掛札, http://www.kakefuda.co.jp/,（参照 2014 年 2 月 17 日）
[3] 宮井株式会社, http://www.miyai-net.co.jp/, (参照 2014 年 2 月 17 日)